

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来 米国要人その他

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43339

アンガー 高等弁務官 訪米 紀 1924

北米課長

ム共A43外15 (52) ③完一①
○ライス法修正案の認要請へ
アンガー高等弁務官帰国

【ワシントン十六日松尾共同特派員】アンガー米琉球高等弁務官は米議会での沖繩関係予算審議での証言と政府当局との打ち合わせのため十六日午後、ワシントンに着いた。同弁務官は二十一日、六八年度予算審議中の下院歳出委員会対外活動小委員会（ロスマン委員長）で証言、千二百万ドルの沖繩経済援助を含む合計千四百九十五万六千ドルの沖繩関係新規債務負担限の承認を要請する。

アンガー弁務官はこのほかできたら昨年上院で審議未了となり、ことし再び提出されているライス法修正案（沖繩経済援助の最高限度をいまの千二百万ドルから二千五百万ドルに引き上げる）の審議でも証言したい意向である。

(統) 19

317 / 1042

ム共A44外15 ②

○アンガー

しかし同法案を取り扱う下院軍事委員会筋によると、委員会が審議にはいれるのは五月第一週ごろとしており、い②たん帰任後出直すことになる公算が大きい。ただし今度の滞在中、上下両院軍事委員会首脳に強く、ライス法修正案承認を要請するものとみられている。上院軍事委員会も現在審議を始める気配はない。

またアンガー弁務官はワシントン滞在中、国防総省当局者と今後の沖繩施政全般について協議するものとみられているが、席上、最近日本国内で再び高ま②ている沖繩施政権返還の論議にたいする態度についても包括的な検討が行なわれる②と②られている。

(統) 19

317 / 1045

ム共A45外15 ③完
○アンガー

一方、松岡主席が三月末ワシントンを訪問、ライス法修正案について要望するさい、沖繩の自治権拡大について申し入れるため③ンソン大統領との会談を求めているとの報道にたいし、十六日米側関係当局は『なにも聞いていない』と述べている。また大浜南方同胞援護会長の沖繩問題解決要望のための訪米についても同様に『連絡を受けていない』と論評を巨んでいる。

(了) 19

317 / 1057